

# 第3回 こども・若者審議会

## 議事概要

日時:令和6年10月29日(火) 18時00分

会場:箕輪町役場講堂

出席者:合計37名(町長1名、委員15名、町・事務17名、受託者4名)

【町長】白鳥政徳

【委員】久保田彩、笠井陽一、土岐悠美(欠席)、山崎絵美、高草木峻一(欠席)、玉城来夏、有賀ちまり、山崎由紀、小松友昭、荻原直己(欠席)、竹花宏美、鹿野恵美、塩崎正、中澤利枝、小口智世、田澤律子、倉科正豊、緑川潤也、小池こず枝(欠席)

【町、事務局】企画振興課、くらしの安全安心課、福祉課、こども未来課、健康推進課、学校教育課、文化スポーツ課

【受託者】株式会社ワイド池上、春日、山岸、丸山

### — 議事 —

#### 1 開会

#### 2 会長挨拶

塩崎会長

こども・若者審議会の第3回目を迎えます。6月から7月に行ったアンケートやヒアリングの結果を踏まえ、こどもまんなか社会、その実行となる計画作りに取り組んでいく時期を迎えています。活発なご意見をよろしくお願いします。

#### 3 説明・協議事項

##### (1) こども計画(仮称)素案について

##### 第1章から第4章について(受託者から)

- ・基本理念について「すべてのこどもが」→「すべてのこども・若者が」に変更検討
- ・基本目標1及び2「守る」「支援する」はこども主体になるよう変更を検討

塩崎会長

非常に重要な部分ですので、ご意見ご質問ありましたら遠慮されずをお願いします。

緑川委員

基本目標の「守る」「支援する」という表現の部分で、こどもを真ん中にすることを目指しているため、主体性がある表現に変えていくことに賛成です。

小口委員

基本理念で、「こどもまんなか」を具体的に定義した方がいいと思います。どういう定義でこの言葉を選んだのですか。

受託者

町に暮らすすべてのこども・若者が身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で毎日の生活を送ることができる社会というところで、「こどもまんなかのまち」にしています。もう少し具体的な説明が必要ということであれば、別で説明するようにしますが、どうでしょうか。

塩崎会長

用語解説があり、こども大綱の中に説明もあります。これを踏まえてということですね。

#### 第5章について(受託者から)

- ・ 35 ページ (2) の施策の方向性下から 3 つ目→34 ページ (1) こども・若者の権利への理解促進の施策の方向性へ移動
- ・ 35 ページ (2) 事業上から 4 つ目が追加
- ・ 37 ページ一番上 (現状と課題) 追記あり
- ・ 37 ページ (5) 事業下二つ追加
- ・ 41 ページ現状と課題に追記修正
- ・ 41 ページ施策の方向性一部を青年期へ移動
- ・ 42 ページ事業一部を青年期へ移動
- ・ 44 ページ施策の方向性一部 41 ページから移動
- ・ 44 ページ事業上から三つ目追加
- ・ 44 ページ事業下三つ青年期から移動

塩崎会長

何かご意見ご質問がありましたら出してください。

鹿野委員

41 ページに事業が色々書いてあるのですが、どこかに少子化をストップという言葉を入れたらいいと思いました。

塩崎会長

ご検討ください。

小口委員

「(1)こども・若者の権利への理解促進」で、「こどもまんなか」というのはこどもの権利を改めて大切にしようということだと思います。(1)に対する新規事業がないのですが、どんな事業をされるのでしょうか。

こどもの意見を聞いて反映していくのはいいと思うのですが、こどもの権利が守られているかを第三者がチェックするようなオンブズマン制度とかもあるといいと思いました。

塩崎会長

事業関係を多めにピックアップしていただければいいと思います。

中澤副会長

相談という言葉がいくつか出てくるのですが、こども計画が切れ目なく一体的に提供する支援を核にしているので、相談窓口が分かれていると相談する人はどこに行ったらいいのか迷うと思います。相談窓口を一本化する事を検討していただきたいです。

倉科委員

学童期・思春期への支援の中で、「不登校のこどもの居場所づくりを検討する」や「こどもの居場所づくりを進める」とあるのですが、今後のことを考えていくうえで不登校のこどもがいる前提ではなく、これからの学校づくりの中で不登校のこどもを作らないという前向きな取組がないのかという疑問があります。困ったときの相談の場所づくりは必要かもしれないが、全てのこども達がそういった居場所がなくても行ける学校づくりを目指すような前向きな取組がないのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局〈学校教育課〉

不登校の取組に関しては、事業的な推進が求められていましたのでこのような文言が増えています。前向きな取組を積極的に取り入れられるよう検討したいと思います。

町長

学校教育と保育・幼児教育の本体については基本的に入れていません。この中で入れることは難しいと思っているので、学校に関わることについては基本的に入れなつもりです。いじめや不登校とかの社会的な状況を見ていくことは必要だと思うので、その仕分けはご理解をいただきたいと思います。

## 第 6 章及び第 8 章について(受託者から)

### 第 7 章について(町から)

- ・ 71 ページ、■二つ目「こども」を削除する予定

塩崎会長

ご説明いただいたことについて、ご質問ご意見がございましたらお願いします。

鹿野委員

60 ページの親子で預かりというのは、DV とかの避難的な事を考えているのでしょうか。まだ町内にはないですが、どういうものを想定していますか。

67 ページに、子育ての不安や悩みの相談、助言がありますが、ヘルパーさん等をお願いしているのを、産後ドゥーラという形で職域を広げていくことを考えているのでしょうか。

70 ページの事業のところ、令和 6 年度の状況が書かれていますが、もう少し現状を教えていただいて今後どうしていくかを説明していただけるとありがたいです。

事務局〈こども未来課〉

まず、60 ページの子育て短期支援事業です。現在、児童養護施設、ファミリーホーム、乳児院、里親家庭と契約をしています。親の休息を兼ねたお泊まり利用を想定していますが、国としては保護者の休息を兼ねた新たな親子利用もうたっています。こどもだけで泊まるのが難しい場合もあるので、親子利用ができると幅が広がると考えています。ただ、現在契約している施設で親も一緒に泊るとなると、もともといるこどもの部屋割のことがあるので調整しています。また、助産院も契約していただけるとありがたいと思っています。

それから 67 ページの子育て世帯訪問支援事業です。これまでは家事・育児の支援ということでヘルパー事業所と契約していますが、これからは不安や悩みの傾聴、相談、助言が入るので、新たに契約をする事業所には必ず研修を実施することとなっています。研修も含めて対応をしていただける事業所を探す必要があります。現在契約をしているヘルパー事業所とも相談をしながら、新たな事業展開をできる場所も探したいと考えています。

事務局〈こども未来課〉

70 ページの乳幼児の通園支援事業です。木下保育園で試行しておりますが、今年度は、予約はありましたが実際の利用はなかった状況です。もともと沢保育園で行っている一時預かり保育の利用は定着をしているので、そちらの利用を希望される方が多いという状況です。月に 10 時間という制限があることで利用が進まないと考えています。来年度以降については、利用時間や料金等も見ながら利用が進むような現状にしたいと思います。

鹿野委員

親子の泊まりとかの意図はわかりました。例えば、助産師によってはレスパイトの話も含めて事業拡大と思う人もいるかもしれませんが、本来の産後ケア事業と親子の休息、お泊りは分けて考えた方が本来の産後ケア事業としてケアができると思います。そこも考えていただけるとありがたく思います。67 ページの研修では、ヘルパーの研修ではなく産後ドゥーラの研修なのかなと思った次第です。

#### 「4 地域・様々な主体の取り組みや連携」について(受託者から)

塩崎会長

こういう取組ができそうだということがありましたら、お話をお願いできますか。

中澤副会長

大人が企画することから発想を転換して、こどもに企画運営を任せてアイデアを出してもらうことをやってみてはどうかと思います。学校現場でも、こどもが主体で動き企画運営をする活動が見られます。地域に出たときに、こども達がそういった経験を生かしながら企画運営やアイデアを出してもらう場を設けるのはどうかと思いました。地域は長期継続的にできるところがメリットだと思うので、一回のイベントで終わるのではなく、長期的な視点を見据えて企画運営をしていくといいと思いました。

あと、大人がこっちに来てというのではなく、こどもが集まっている場所に大人たちが出てかけて提案ができる機会が増えるといいと思いました。

塩崎会長

時間的な制約もあります。何か違う形で意見を集約する手はありませんか。

事務局〈こども未来課〉

いったんお持ち帰りいただいて、来週 5 日火曜日までに意見をお寄せいただき、次回 12 月の審議会に基本計画の案としてまとめて出させていただきます。その中で出てきた事業についてまたご検討いただければと思います。

塩崎会長

来週火曜日までに、メールや FAX などでお知らせいただければと思います。

小口委員

学校を入れなということがとても違和感があります。こどもまんなかの社会を作るにあたって、学校のことがないというのは芯が抜けているような気持ちなのですが。皆さんどう感じられますか。

塩崎会長

教育委員会の制度があるので違う立場で深めていくということですが、この計画の中で家庭、地域、社会、学校と連携を深めるという方策は必要となっています。そうした中で、学校教育とどのような連携ができるのか、在り方にも若干言及できると思います。いかがでしょう。学校教育もそこに載せるということではできると思います。

小口委員

例えば、こどもの意見を聞いた時にそれを検討して結果を知らせることになると思いますが、学校に関する意見の扱いはどうなるのでしょうか。

町長

学校が主体になることについては書けませんが、連携とかについては書くことはできると思います。ただ、教育関係者がすべて揃っているわけではないということと、教育委員会が学校教育をやっているの、それを主体的に書くことはしないということです。教育委員会に任せなければいけない部分ですので、教育そのものの守備範囲は広いですが、そこについて今回は言及しません。おっしゃる様な内容については、十分対応できると思います。

塩崎会長

よろしいですか。

小口委員

はい。

## 4 その他

事務局〈こども未来課〉

次回の審議会の日程についてご連絡させていただきます。

- ・ 日時：12月19日（木）18：00～
- ・ 会場：箕輪町役場講堂

今回は、こども計画の案として作成したものを見ていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 5 閉会

中澤副会長

本日はこどもまんなか社会のスタートラインにたったわけです。また次回意見が深まることを期待して会を閉じたいと思います。以上をもちまして第3回こども・若者審議회를終了します。お疲れ様でした。